



技と思考を鍛える

愛媛県立医療技術大学

助産学専攻科

高度な実践能力を獲得し
あらゆるライフステージにある女性と家族を支援する
専門性の高い自立した助産師を育成します

● 教育目標

高度な実践能力を獲得し、あらゆるライフステージにある女性と家族を支援することのできる専門性の高い、自立した助産師を育成します。

● 求める人材（アドミッションポリシー）

助産学専攻科では下記のような入学生を求めます

- 生命誕生に強い関心を持ち、主体的に助産学を学習できる人
- 協調性と責任感を持ち、対象に真摯に向き合える人
- 助産師として母子の健康に貢献する意志をもつ人

● 学びの特色（カリキュラムポリシー）

区分	授業科目	単位数	履修方法及び修了要件
助産学基礎領域	助産学概論	1	7単位
	性と生殖の形態機能	1	
	周産期医学	2	
	新生児・乳幼児学	1	
	生殖医療と生命倫理	1	
	国際助産活動論	1	
助産学実践領域	助産診断・技術学Ⅰ	1	26単位
	助産診断・技術学Ⅱ	2	
	助産診断・技術学Ⅲ	1	
	助産診断・技術特論	1	
	周産期ハイリスクケア論	1	
	統合ヘルスケア	1	
	親子関係発達論	1	
	子育て支援論	1	
	ウイメンズヘルスケア	1	
	思春期ヘルスケア	1	
	助産管理	2	
	助産学実習Ⅰ	3	
	助産学実習Ⅱ	8	
	助産学実習Ⅲ	1	
助産学実習Ⅳ	1		
助産学探究領域	助産学研究Ⅰ	1	2単位
	助産学研究Ⅱ	1	
卒業要件単位数		35単位	

- 知識から実践へ、そして探究へと段階的に学修を深めていきます
- リプロダクティブヘルスを基盤とした幅広い視野を身につけることができる科目を配置します
- 母子や家族に寄り添い、多様な対象や活動の場における助産実践力を高められる授業や実習を展開します
- 自立した助産師として自己教育力や他者と連携・協働する力を身につけるための学修方法を取り入れています
- 授業や実習での学びを最終的に助産学研究として統合し、助産師としてのアイデンティティの確立を促します

充実した本学の实習施設

- 助産学実習Ⅰ・Ⅱの実習施設
全期間を通して学生がいずれか1つの施設に固定して、集中した実習をおこないます
愛媛県立中央病院 愛媛県立今治病院
松山赤十字病院 四国中央病院
ばらのいずみクリニック
- 助産学実習Ⅱの実習施設
上記施設に加えて学生がローテーションしながら、様々な施設での実践を学びます。
つばきウイメンズクリニック 矢野産婦人科
- 助産学実習Ⅲ・Ⅳ
地域での助産師活動や助産所の自然出産、教室開催を学びます。
まつやま助産院 ほか 地域の母子支援施設
※年度により変更あり

【取得可能な資格】

助産師国家試験受験資格
受胎調節実地指導員
新生児蘇生法「専門」コース修了認定

● 専攻科修了時に獲得できる能力（ディプロマポリシー）



倫理観

生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる

自覚と誇り

助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる

女性の健康支援

女性のリプロダクティブヘルス／ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる

マタニティサイクルの支援

マタニティサイクルにある対象の個性を尊重し、その力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる

地域の子育て支援

女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる

柔軟性

周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている

探究力

助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている

● 専攻科の1年間 夢に向かってステップアップ ～助産師への階段～

一歩ずつステップアップしていけるよう、段階的に講義・実習をすすめていきます。

実習では、分娩介助をはじめ、妊娠期から育児期までの継続事例とのかかわりの中で、母子と家族の支援を学びます。

1年間をかけて、母子の成長とともに助産学生としての成長を実感できるスケジュールとなっています。

※下記の予定は、変更になる場合があります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	講義			集中実習	講義 夏期休暇	講義	集中実習		講義・実習	冬期休暇 実習	国試期間	
入学式	助産学実践領域(基礎編・発展編)			助産学実習Ⅰ 施設固定実習	発展編	発展編	助産学実習Ⅱ 施設固定実習		助産学実践領域(統合編) 助産学探究領域		国家試験準備期間	事例研究論文発表会 助産師国家試験 地域子育て実習発表
	助産学基礎領域			助産学実習Ⅲ(助産所・地域)	実習Ⅱ:ローテーション実習			助産学実習Ⅲ(助産所・地域活動)		助産学実習Ⅳ(健康教育)		修了式
	●実習Ⅱ:病院・クリニック継続事例受持ち				●訪問		●分娩		●訪問		●お出かけ	
	●実習Ⅲ:助産所継続事例受持ち(選択学生)				●		●		●		●	
	●実習Ⅳ:集団健康教育教室開催				●		●		●		●	

専攻科長からのメッセージ



専攻科長
中西 純子

助産師国家試験受験資格を取得するには、4年間の看護基礎教育課程のなかで、看護師受験資格と同時に取得する道や大学院修士課程で取得する道もあります。そのようななか、本学助産学専攻科の特徴は、学力と看護師としての基礎的な実践力を身に付けた上に、助産師としての専門的な知識やスキルの獲得に1年間集中できることにあります。そのため、助産師国家試験合格率は専攻科開設以来100%合格を続けていますし、仲間同士の絆も深く、修了後のネットワークにもつながっています。そこにはプラス1年の価値が十分にあると確信しています。1年間の短い時間のなかで昼夜を問わない実習には覚悟が必要ですが、それだけにやりきった先の達成感は大きく、それを教員、臨地実習施設の指導者、協力していただく妊産褥婦の方たちとともに喜び合える感動が待っています。

本学は短期大学の時代から愛媛県内では唯一の助産師養成機関として県内外に多くの助産師を輩出してきました。本学専攻科は、命の誕生に寄り添う感動と確かな実践力を獲得したい人の要望に応えます。1年間、一緒に駆け抜けてみませんか。

修了生からのメッセージ



山崎 詩月さん
平成30年 助産学専攻科修了
県内 産婦人科クリニック勤務

入学したばかりの頃、先生に「気がついたら助産師になっている、そのくらいこの一年はあっという間です。」と言われたのを覚えています。

座学ではマタニティヨガやお灸の授業などもあり、助産師といえば分娩のイメージが強かったのですが、分娩に関することだけでなく、妊娠中や産後も私たち助産師が対象者さんに関わっていけるんだなーとイメージが湧くようなもので楽しかったです。

実習は昼だけでなく夜も待機があることで緊張が続き、正直キツかったです。特に実習施設によっては自宅に帰るのが難しい場合もあるので、実習メンバーと協力し合うことが必要だと感じました。分娩に関わらせていただいた産婦さんには「いい助産師さんになってね」と声をかけていただき、分娩介助させていただいたことに感謝の気持ちを忘れてはいけななと思いました。とてもハードな一年でしたが、本当にあっという間でした。これ乗り越えた経験を糧にして、対象者さんに一人一人にとって、いいお産になるような関わりができるよう精進していきたいと思っています。

修業年数 1年
募集人員 12名(予定)
入 学 料 県内居住者/169,200円
 県外居住者/253,800円
授 業 料 535,800円

その他、教科書代、実習等諸経費として、20万円程度必要。
※実習状況などにより変動があります。

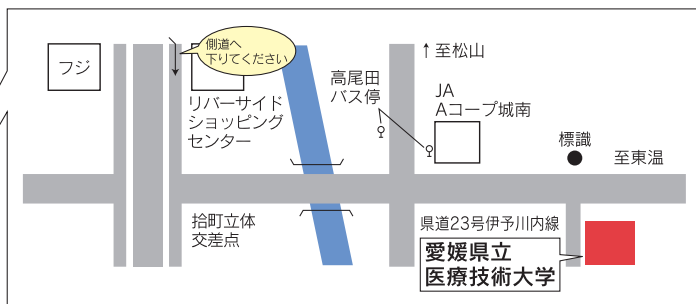
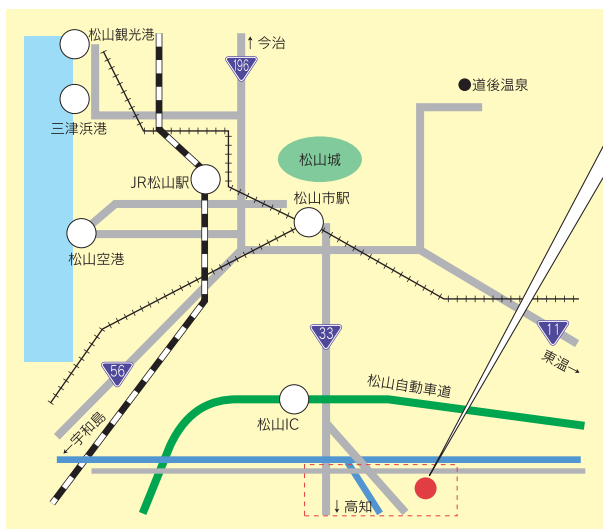
出願方法・募集要項について

令和4年度入試(令和3年度実施)からインターネット出願となっています。出願資格については選抜要項もしくは募集要項※でご確認ください。

※選抜要項・募集要項は、本学ウェブサイトで公表しております。
(冊子での募集要項は配布しておりませんのでご注意ください)

内容更新日 R4.7.15

[マップ・交通アクセス]



松山観光港	連絡バスと郊外電車約40分	松山市駅	伊予鉄バス 砥部方面行約30分	高尾田バス停	徒歩約10分	愛媛県立医療技術大学
三津浜港	伊予鉄バス約30分					
松山空港	伊予鉄バス約20分					
J R 松山 駅	市内電車約10分					
松山自動車道	松山自動車道松山ICで降り、国道33号線を高知、久万高原方面に右折。 約3km南の砥部町拾町立体交差点で、県道23号伊予川内線を東温方面に左折。 約1km直進し、愛媛県立医療技術大学標識を右折す。					



公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地
TEL089-958-2111 FAX089-958-2177
<https://www.epu.ac.jp/>

助産学専攻科の
詳しい内容や
紹介動画はこちら！

